平成26年７月11日

各　　位

会 社 名　　JALCO ホールディングス株式会社
代表者名　　代表取締役社長　田辺　順一
（ＪＡＳＤＡＱ・コード 6625）
問合せ先
役　職・氏　名　取締役管理本部長　大浦　隆文
電　話　　050－5536－9824

（再訂正）「平成 24 年３月期 決算短信［日本基準］（連結）」の一部再訂正について

平成 26 年 6 月 12 日付で公表いたしました（訂正）「平成 24 年３月期 決算短信［日本基準］（連結）」の記載内容の一部に誤りがございましたので、下記のとおり訂正いたします。

なお、平成 26 年６月 30 日付で関東財務局へ提出しております、有価証券報告書及び四半期報告書の訂正報告書には、訂正はございません。

訂正箇所には下線＿ を付して表示しております。

記

１．【訂正理由】

当社の子会社である株式会社ジャルコアミューズメントサービスが、平成 24 年１月から開始した中古遊技機割賦販売事業において取引先による不正が発覚したために、取引開始から発覚までに行った取引の会計処理を取消しました。

当初は、セグメント名は変更せずに訂正決算短信をご提出しましたが、以上のことを鑑み、会計処理の実態に合わせるためにセグメントの名称を「遊技機レンタル・割賦販売事業」から「遊技機レンタル事業」に変更することが必要であるとの判断から名称変更をしたことに伴い、関連する箇所を訂正するものであります。

２．【訂正箇所】

１．経営成績
（１）経営成績に関する分析
（次期の見通し）
（４）事業等のリスク
②当社グループの事業戦略、事業活動に関するリスク
ａ．新規事業に伴うリスク
ｂ．資金調達に伴うリスク
ｃ．債権が貸倒れとなるリスク
（５）継続企業の前提に関する重要事象等
２．企業集団の状況
３．経営方針
（３）中長期的な会社の経営戦略
（４）会社の対処すべき課題
①資金調達力の強化
４．連結財務諸表
（５）継続企業の前提に関する注記

２ページ
１．経営成績
＜訂正前＞
（１） 経営成績に関する分析
（省略）
（次期の見通し）
平成 25 年３月期の業績は、売上高 17 億 60 百万円、営業利益１億 60 百万円、経常利益 70 百万円、当期純利益 30 百万円を見込んでおります。
なお、当社グループの事業は、平成 24 年１月に遊技機レンタル・割賦販売事業を新たに開始し、従来の電子機器用部品事業に加え２業態となりました。
当社は、各事業子会社を統括する持株会社であり、経営資源配分及び業績評価も各事業会社を単位としております。分離された財務情報も入手可能であり、これらが、取締役会が、経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっております。
従いまして、当社は、次期より、報告セグメントを、「遊技機レンタル・割賦販売事業」、「電子機器用部品事業」の２つの事業の種類別セグメントといたします。

次期における事業の種類別セグメントの見通しは以下のとおりです。

・遊技機レンタル・割賦販売事業
当社は、遊技機レンタル・割賦販売事業を、グループの中核事業に据えて、当該事業の取扱高、取扱残高の積み増しを可能にすべく、事業資金の調達を図ってまいります。事業活動におきましては、取引対象先ホールの格付調査や中古遊技台の真正価値を随時（ホールの状況も中古遊技機の価値も日々変化しています。）正確に把握できることを強みとして、パチンコ・パチスロ機器を仕入れる販売会社、レンタル及び割賦販売の対象となるパチンコホールとの取引拡大、取引先数拡大を進めてまいります。
以上により、遊技機レンタル・割賦販売事業におきましては、取扱高 42 億 30 百万円、売上高２億 50 百万円、営業利益１億 40 百万円を見込んでおります。

＜訂正後＞
（１） 経営成績に関する分析
（省略）
（次期の見通し）
平成 25 年３月期の業績は、売上高 17 億 60 百万円、営業利益１億 60 百万円、経常利益 70 百万円、当期純利益 30 百万円を見込んでおります。
なお、当社グループの事業は、平成 24 年１月に遊技機レンタル事業を新たに開始することを決定し、従来の電子機器用部品事業に加え２業態となりました。
当社は、各事業子会社を統括する持株会社であり、経営資源配分及び業績評価も各事業会社を単位としております。分離された財務情報も入手可能であり、これらが、取締役会が、経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっております。
従いまして、当社は、次期より、報告セグメントを、「遊技機レンタル事業」、「電子機器用部品事業」の２つの事業の種類別セグメントといたします。

次期における事業の種類別セグメントの見通しは以下のとおりです。

・遊技機レンタル事業
当社は、遊技機レンタル事業を、グループの中核事業に据えて、事業資金の調達を図ってまいります。事業活動におきましては、取引対象先ホールの格付調査や中古遊技台の真正価値を随時（ホールの状況も中古遊技機の価値も日々変化しています。）正確に把握できることを強みとして、パチンコ・パチスロ機器のレンタルの対象となるパチンコホールとの取引拡大、取引先数拡大を進めてまいります。
以上により、遊技機レンタル事業におきましては、取扱高 42 億 30 百万円、売上高２億 50 百万円、営業利益１億 40 百万円を見込んでおります。

５ページ

＜訂正前＞

（４）事業等のリスク

（省略）

②当社グループの事業戦略、事業活動に関するリスク

ａ．新規事業に伴うリスク

当社グループは、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現することを目的として、平成24年１月に遊技機レンタル・割賦販売事業を開始いたしました。当該事業で取り扱う中古遊技機のリードタイム（仕入から納品までの期間）は平均40日弱となっており、投下資金の回転率が高いことから、収益性も高く、当社グループの収益の柱として持続的かつ安定的な成長を期待しております。

このように、当社は、収益基盤の多様化を目的として、グループ企業価値の向上に資する新規事業、あるいはM&Aも視野に入れた投資事業についても積極的に取り組み、当社グループ全体の収益モデルの多様化を図ってまいりますが、新規事業を計画どおり展開できない場合や競合の状況によっては、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

ｂ．資金調達に伴うリスク

当社グループが営む遊技機レンタル・割賦販売事業を、短期間で収益の柱として成長させるためには、取扱高、取扱残高の積み増しが必要であり、そのためには事業資金の調達が必須となります。そこで、当社は、金融機関、投資家からの借入、あるいはエクイティ・ファイナンスなどにより、安定的な資金調達のために調達

手段の多様化を図っております。しかしながら、グループ全体の業績回復の遅れ、経済情勢の変動などの要因により、資金調達が困難となった場合、または通常よりも著しく不利な条件での資金調達等を余儀なくされた場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

ｃ．債権が貸倒れとなるリスク

当社グループが営む遊技機レンタル・割賦販売事業における商品供給先は、全国のパチンコホールとなります。当該事業の運営主体である株式会社ジャルコアミューズメントサービス（以下「JAS」といいます。）は、取引対象先ホールの格付調査などを行い回収リスクの極小化を図っておりますが、何らかの事由によりパチンコホールからの回収が不能あるいは早期回収が困難となった場合は、当社グループの事業、財務状態及び

経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

（省略）

（５）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成23年10月３日にジャルコの株式移転により持株会社として当社を設立いたしましたが、当連結会計年度におきましても営業損失、経常損失及び当期純損失の発生が継続している状態にあるため、継続企業の前提にかかる重要な疑義が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現するために、平成24年１月に開始した遊技機レンタル・割賦販売事業をグループの中核事業に据えて、当該事業の取扱高、取扱残高の積み増しを図るべく、事業資金の調達を図ってまいります。当該事業の運営主体であるJASは、取引対象先ホールの格付調査や中古遊技台の真正価値を随時（ホールの状況も中古遊技機の価値も日々変化しています。）正確に把握できることを強みとしております。遊技機レンタル・割賦販売事業で取り扱う中古遊技機のリードタイム（仕入から納品までの期間）は平均40日弱となっており、投下資金の回転率が高いことから、収益性も高く、当社グループの収益の柱として持続的かつ安定的な成長を促進するための事業規模の拡大に重点的に取り組んでまいります。

（省略）

＜訂正後＞

（４）事業等のリスク

（省略）

②当社グループの事業戦略、事業活動に関するリスク

ａ．新規事業に伴うリスク

当社グループは、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現することを目的として、平成24年１月に遊技機レンタル事業を新たに開始することを決定いたしました。

このように、当社は、収益基盤の多様化を目的として、グループ企業価値の向上に資する新規事業、あるいはM&Aも視野に入れた投資事業についても積極的に取り組み、当社グループ全体の収益モデルの多様化を図ってまいりますが、新規事業を計画どおり展開できない場合や競合の状況によっては、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

ｂ．資金調達に伴うリスク

当社グループが営む遊技機レンタル事業を、短期間で収益の柱として成長させるためには、事業資金の調達が必須となります。そこで、当社は、金融機関、投資家からの借入、あるいはエクイティ・ファイナンスなどにより、安定的な資金調達のために調達手段の多様化を図っております。しかしながら、グループ全体の業績回復の遅れ、経済情勢の変動などの要因により、資金調達が困難となった場合、または通常よりも著しく不利な条件での資金調達等を余儀なくされた場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

ｃ．債権が貸倒れとなるリスク

当社グループが営む遊技機レンタル事業における取引先は、全国のパチンコホールとなります。当該事業の運営主体である株式会社ジャルコアミューズメントサービス（以下「JAS」といいます。）は、取引対象先ホールの格付調査などを行い回収リスクの極小化を図っておりますが、何らかの事由によりパチンコホールからの回収が不能あるいは早期回収が困難となった場合は、当社グループの事業、財務状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

（省略）

（５）継続企業の前提に関する重要事象等

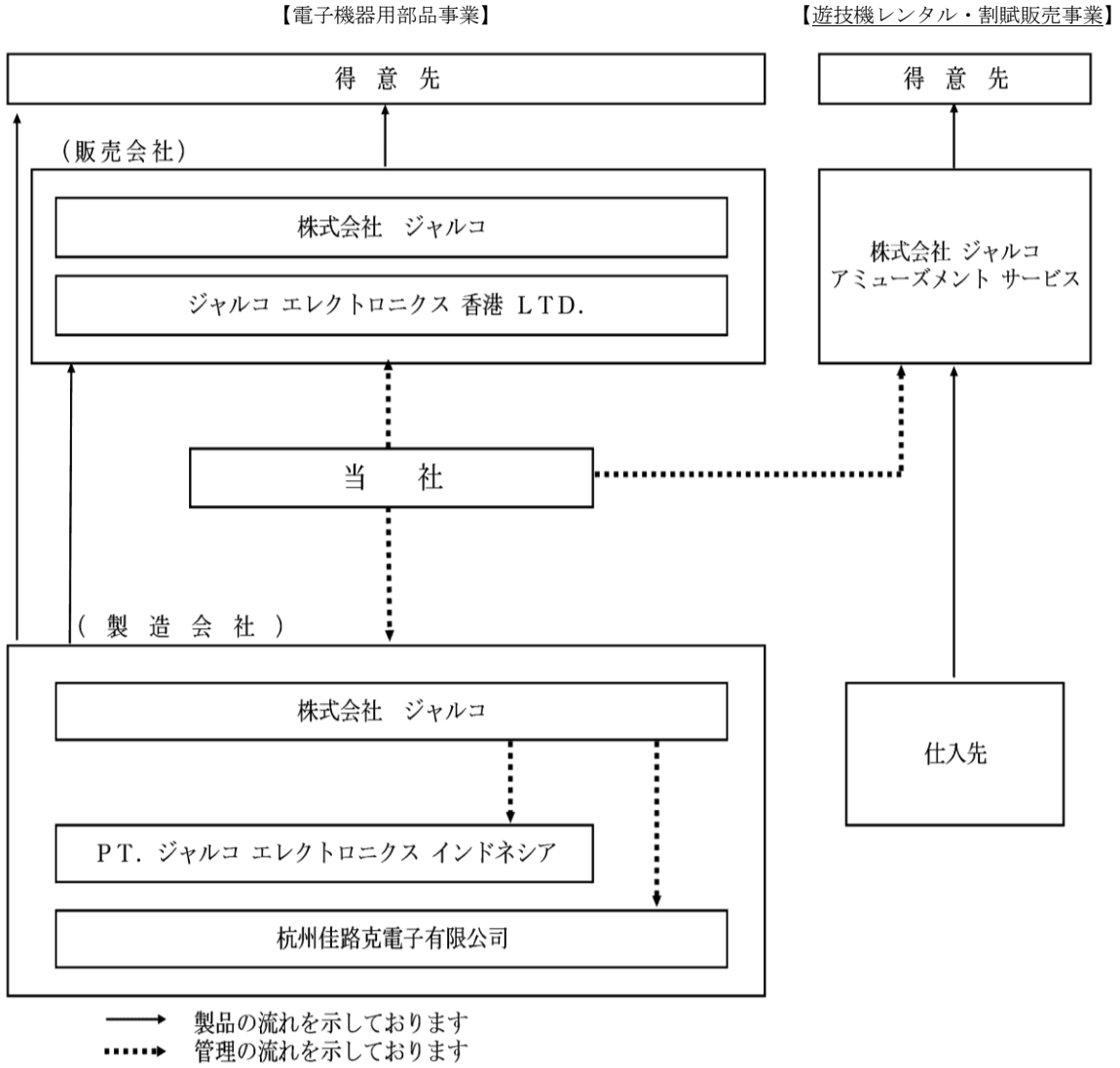
当社グループは、平成 23 年 10 月３日にジャルコの株式移転により持株会社として当社を設立いたしましたが、当連結会計年度におきましても営業損失、経常損失及び当期純損失の発生が継続している状態にあるため、継続企業の前提にかかる重要な疑義が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現するために、平成 24 年１月に遊技機レンタル事業を開始することを決定いたしました。遊技機レンタル事業は収益性も高く、当社グループの収益の柱として、持続的かつ安定的な成長を促進するために事業規模の拡大に重点的に取り組んでまいります。

（省略）

７ページ
２．企業集団の状況
＜訂正前＞
当社は、平成 23 年 10 月３日に単独株式移転によりジャルコの完全親会社として設立されました。
当連結グループは、有価証券報告書提出会社（以下当社という）と国内連結子会社２社及び海外連結子会社５社で構成され、遊技機レンタル・割賦販売事業と民生用及び産業用の映像機器・音響機器等に使用される電子機器用部品並びに電子機器の製造販売事業を行っており、当該事業に係わる各子会社等の位置付けは次のとおりであります。
株式会社ジャルコアミューズメントサービス
パチンコ・パチスロ機器のレンタル・割賦販売を行うとともに、取引対象先ホールの格付や中古遊技台の真正価値を随時調査しております。
（省略）

事業の系統図は次のとおりであります。



＜訂正後＞

当社は、平成 23 年 10 月３日に単独株式移転によりジャルコの完全親会社として設立されました。

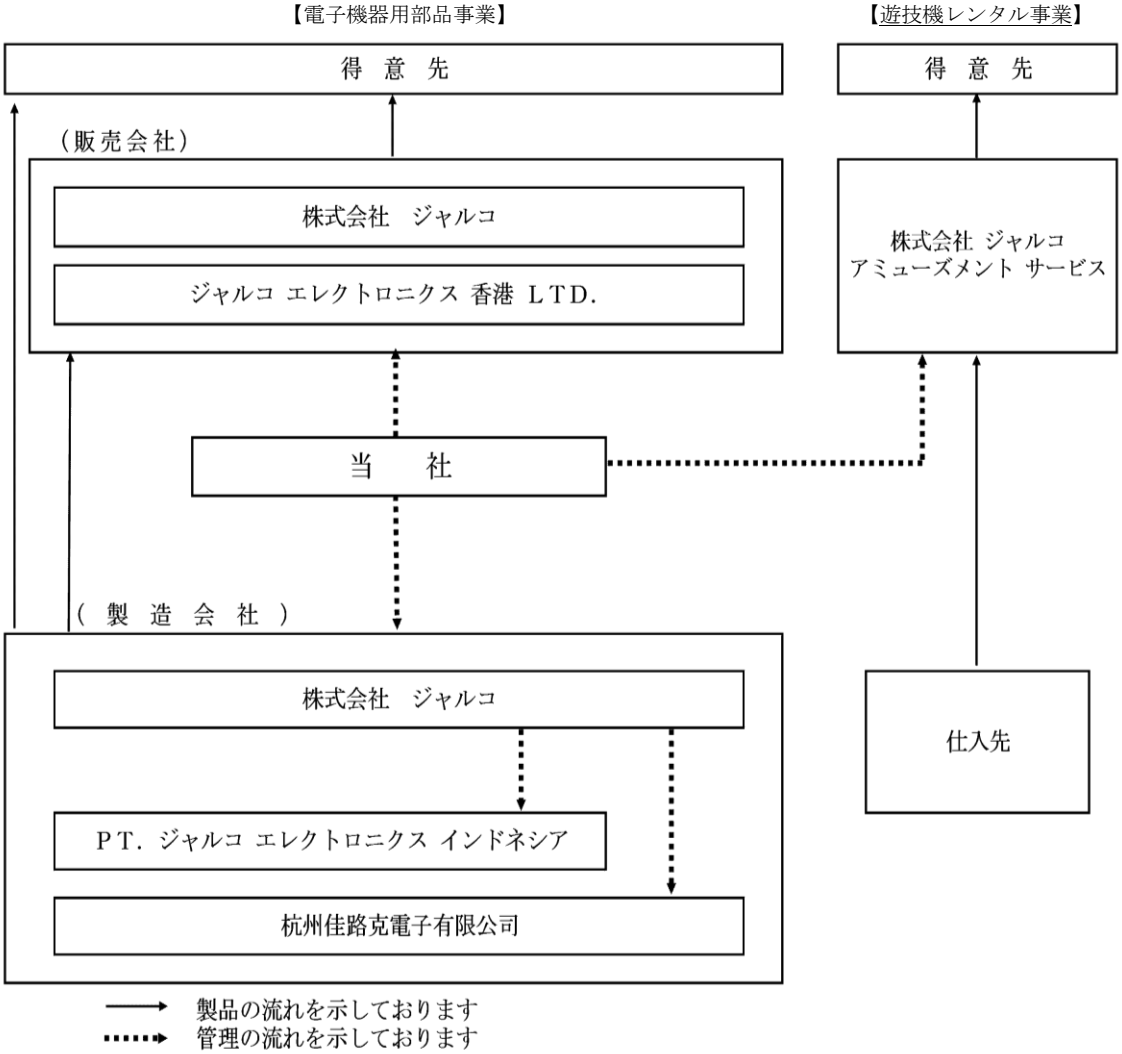
当連結グループは、有価証券報告書提出会社（以下当社という）と国内連結子会社２社及び海外連結子会社５社で構成され、遊技機レンタル事業と民生用及び産業用の映像機器・音響機器等に使用される電子機器用部品並びに電子機器の製造販売事業を行っており、当該事業に係わる各子会社等の位置付けは次のとおりであります。

株式会社ジャルコアミューズメントサービス

パチンコ・パチスロ機器のレンタルと取引対象先ホールの格付や中古遊技台の真正価値を随時調査しております。

（省略）

事業の系統図は次のとおりであります。



９ページ
３．経営方針
＜訂正前＞
（３）中長期的な会社の経営戦略
当社グループが業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現するために、当社は、平成 24 年１月に開始した遊技機レンタル・割賦販売事業をグループの中核事業に据えて、当該事業の取扱高、取扱残高の積み増しを図るべく、事業資金の調達を図ってまいります。当該事業の運営主体であるJASは、取引対象先ホールの格付調査や中古遊技台の真正価値を随時（ホールの状況も中古遊技機の価値も日々変化しています。）正確に把握できることを強みとしております。遊技機レンタル・割賦販売事業で取り扱う中古遊技機のリードタイム（仕入から納品までの期間）は平均 40 日弱となっており、投下資金の回転率が高いことから、収益性も高く、当社グループの収益の柱として持続的かつ安定的な成長を促進するための事業規模の拡大に重点的に取り組んでまいります。
（省略）

（４）会社の対処すべき課題
（省略）
①資金調達力の強化
当社グループが営む遊技機レンタル・割賦販売事業を、短期間で収益の柱として成長させるためには、取扱高、取扱残高の積み増しが必要であり、そのためには事業資金の調達が必須となります。そこで、当社は、金融機関、投資家からの借入、あるいはエクイティ・ファイナンスなどにより、安定的な資金調達のために調達手段の多様化を図ってまいります。

＜訂正後＞
（３）中長期的な会社の経営戦略
当社グループは、当該状況を解消すべく、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現するために、平成 24 年１月に遊技機レンタル事業を開始することを決定いたしました。遊技機レンタル事業は収益性も高く、当社グループの収益の柱として、持続的かつ安定的な成長を促進するために事業規模の拡大に重点的に取り組んでまいります。
（省略）

（４）会社の対処すべき課題
（省略）
①資金調達力の強化
当社グループが営む遊技機レンタル事業を、短期間で収益の柱として成長させるためには、事業資金の調達が必須となります。そこで、当社は、金融機関、投資家からの借入、あるいはエクイティ・ファイナンスなどにより、安定的な資金調達のために調達手段の多様化を図ってまいります。

１９ページ
４．連結財務諸表
＜訂正前＞
（５）継続企業の前提に関する注記

当連結会計年度 （自　平成 23 年４月１日 至　平成 24 年３月 31 日）
当社グループは、平成 23 年 10 月３日に株式会社ジャルコから単独株式移転の方法により持株会社としてJALCOホールディングス株式会社を設立いたしました。前連結会計年度に引き続き、当連結会計年度におきましても、営業損失、経常損失及び当期純損失の発生が継続している状態にあるため、継続企業の前提にかかる重要な疑義が存在しております。 当社グループは、当該状況を解消すべく、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現するために、平成 24 年１月に開始した遊技機レンタル・割賦販売事業をグループの中核事業に据えて、当該事業の取扱高、取扱残高の積み増しを図るべく、事業資金の調達を図ってまいります。当該事業の運営主体であるJASは、取引対象先ホールの格付調査や中古遊技台の真正価値を随時（ホールの状況も中古遊技機の価値も日々変化しています。）正確に把握できることを強みとしております。遊技機レンタル・割賦販売事業で取り扱う中古遊技機のリードタイム（仕入から納品までの期間）は平均 40 日弱となっており、投下資金の回転率が高いことから、収益性も高く、当社グループの収益の柱として持続的かつ安定的な成長を促進するための事業規模の拡大に重点的に取り組んでまいります。 （省略）

＜訂正後＞
（５）継続企業の前提に関する注記

当連結会計年度 （自　平成 23 年４月１日 至　平成 24 年３月 31 日）
当社グループは、平成 23 年 10 月３日に株式会社ジャルコから単独株式移転の方法により持株会社としてJALCOホールディングス株式会社を設立いたしました。前連結会計年度に引き続き、当連結会計年度におきましても、営業損失、経常損失及び当期純損失の発生が継続している状態にあるため、継続企業の前提にかかる重要な疑義が存在しております。 当社グループは、当該状況を解消すべく、業績の早期回復と収益力の大幅な向上を実現するために、平成 24 年１月に遊技機レンタル事業を新たに開始することを決定いたしました。遊技機レンタル事業は収益性も高く、当社グループの収益の柱として、持続的かつ安定的な成長を促進するために事業規模の拡大について重点的に取り組んでまいります。 （省略）